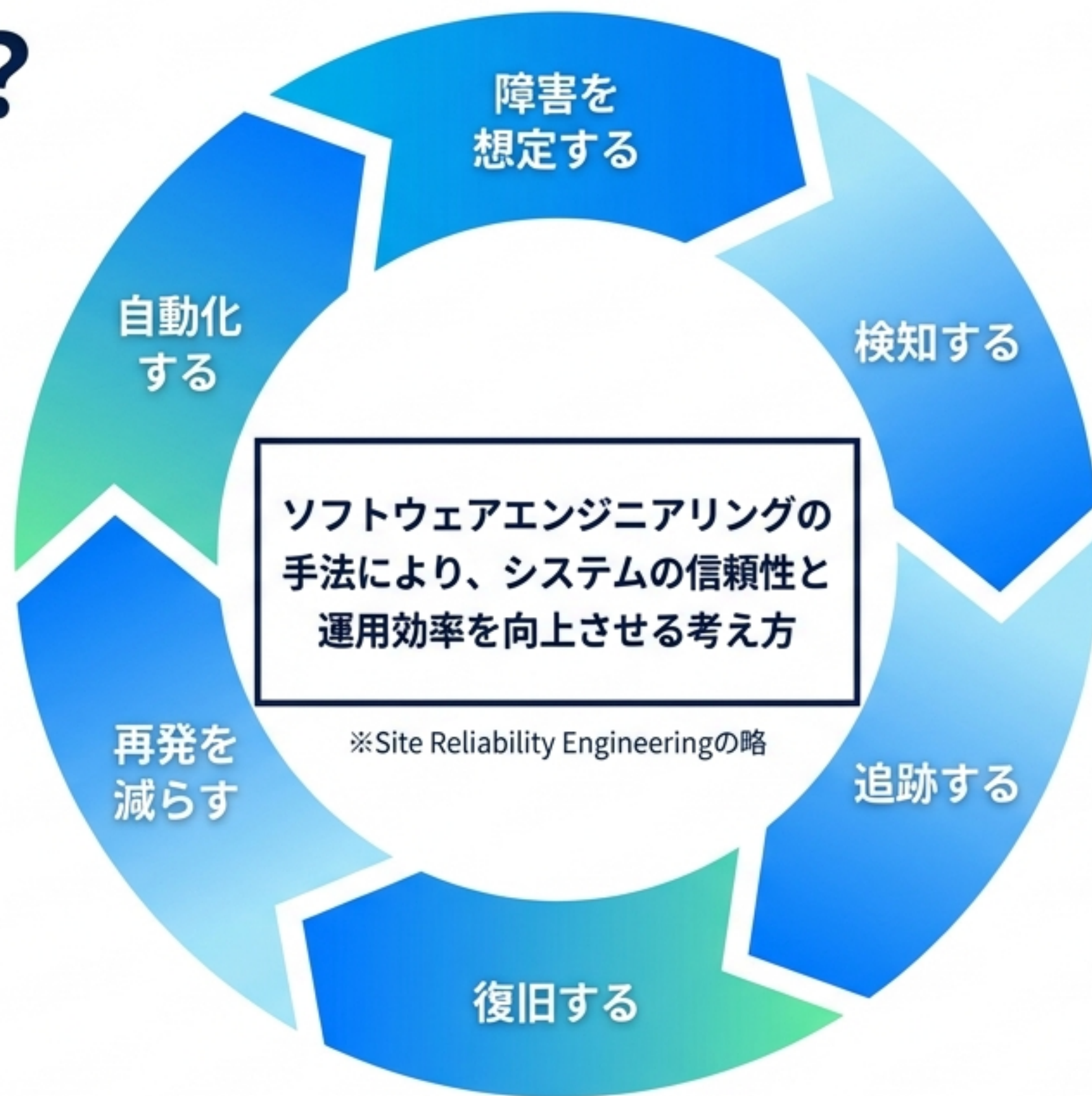




SREの考え方 × AI生成コードのレビュー

SREとは？



SREが重視する5つの観点



信頼性



可観測性



復旧性



自動化



ユーザー視点

動くコードと、運用できるコードは違う

AIが得意なこと

ロジックの構築、素早い実装

動くコード ≠ 本番で安全に運用できるコード

人が確認すること

- ✓ 外部API停止時の挙動
- ✓ ログによる追跡
- ✓ 再実行（リトライ）の制御
- ✓ 安全な復旧経路
- ✓ 障害検知の仕組み

AI生成コードをSREの観点で見る

タイムアウトがない



リトライの条件と上限がない



二重登録対策がない



追跡可能なログがない



失敗した処理を救済できない

```
response = requests.post(url, json=data)
response.raise_for_status()
```

問題を見つけ、AIに修正させる



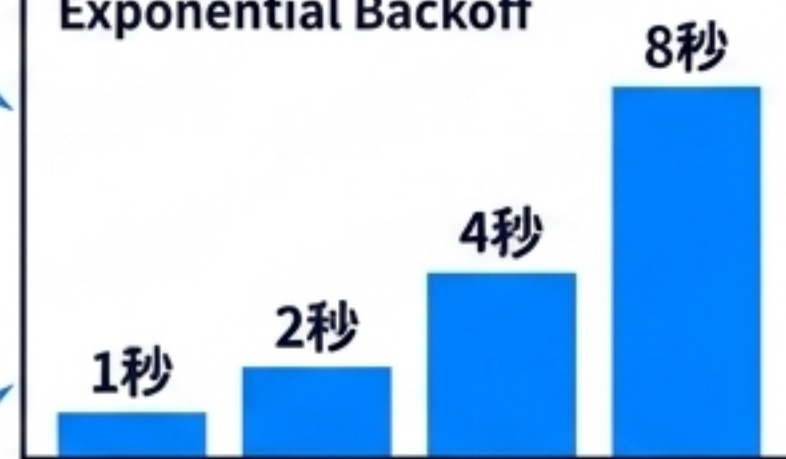
カチトのダクレポート

一時的なエラーだけ
対象としたリトライ
致命的なエラーは
即時終了させる

タイムアウト
処理の待ち時間に
上限を設ける

Chart A

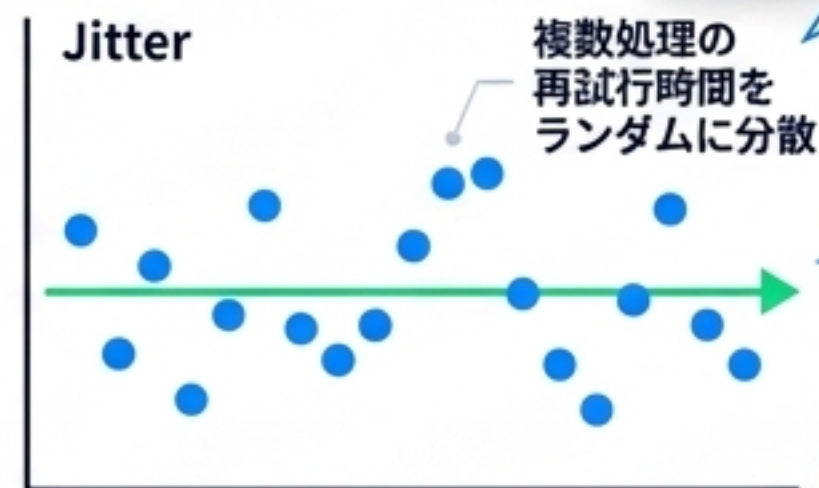
Exponential Backoff



冪等性（べきとうせい）キー
何度実行しても同じ結果を保証する

Chart B

Jitter



冪等性（べきとうせい）キー
何度実行しても同じ結果を保証する

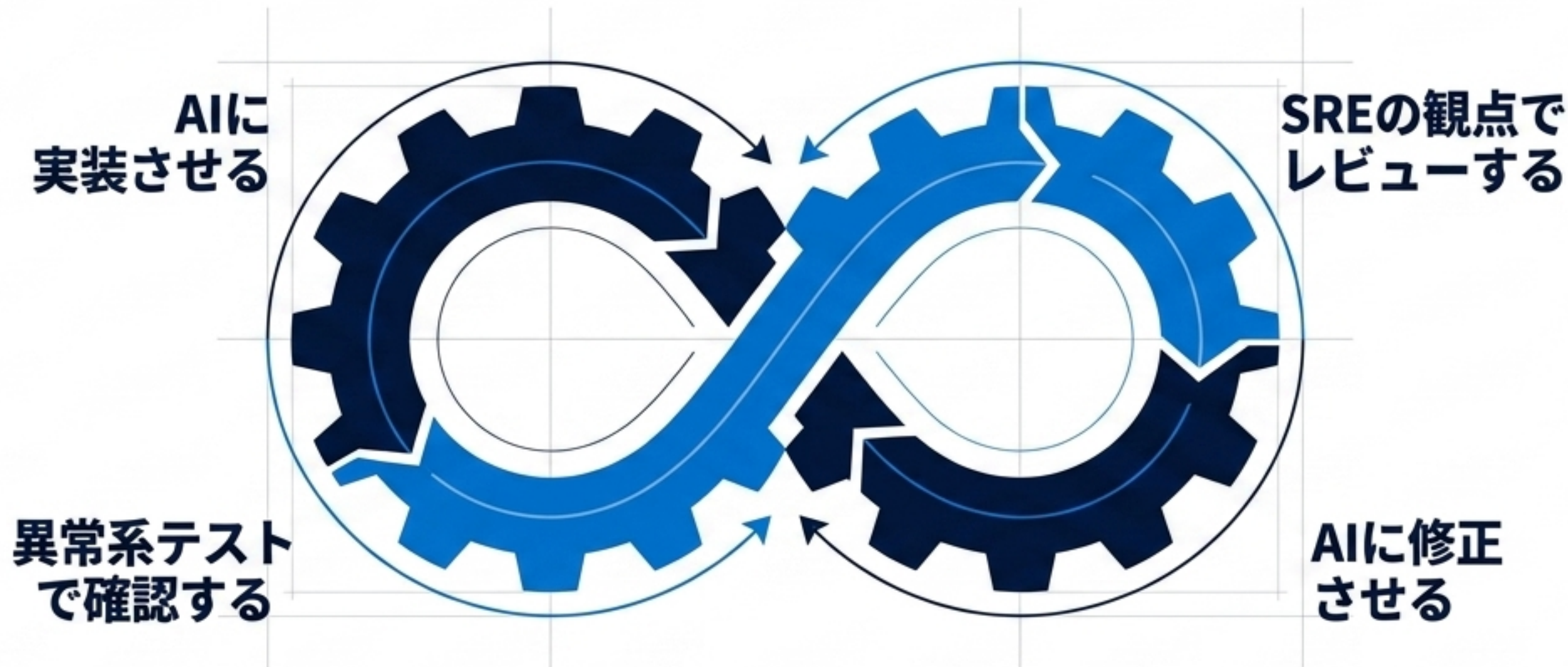
相関ID

複数のシステムを跨いだ処理
を一連の流れで追跡する

DLQ

失敗したデータを破棄せず
退避させる

AIが速度を高め、SREが本番品質を支える



AIが開発速度を高め、SREの考え方が本番運用品質を支える。

※SREの観点だけでコードレビューのすべてをカバーするわけではありません。